

主　　　　　　　　　　文
被告人を懲役４年に処する。
未決勾留日数中１３０日をその刑に算入する。
理　　　　　　　　　　由

(犯罪事実)

被告人は、無差別に電話を掛けた相手から金員を喝取しようと企て、

第１　Ａ１、Ａ２、Ａ３、Ａ４、Ａ５及びＡ６と共謀の上、

１　平成１５年１１月１７日午後零時４８分ころから同日午後１時１４分ころまでの間、東京都杉並区ａ１ｂ１丁目ｃ１番ｄ１号Ｃ・ｅ号室から山口県大津郡ｆ１町ｇ１ｈ１番地Ｂ１方に電話を掛け、同人（当時８０歳）に対し、「息子が借金して払わないから取り立てる。」、「暴力団じゃ。」、「息子は、今、声も出ない状態じゃから話せん。」、「今日中の午後３時までに返さんと息子の命はない。」、「鼻も曲がっている。」、「頭も割れるかもしれん。」、「１５０万円を今日の午後３時まで払い込んだら、息子を解放する。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ同人の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午後２時３６分ころ、同人をして、同郡ｆ１町ｉ１ｊ１番地のｋ１Ｄ１出張所において、同出張所から東京都渋谷区１１ｍ１丁目ｎ１番ｏ１号株式会社Ｅ１銀行Ｅ２支店に開設された被告人らが管理するＦ１名義の普通預金口座に現金１５０万円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

２　同日午後１時３６分ころから同日午後１時４９分ころまでの間、上記Ｃ・ｅ号室から山梨県大月市ａ２町ｂ２ｃ２番地ｄ２Ｂ２方に電話を掛け、同人（当時６０歳）に対し、「お宅の子供が、ササキトシユキの連帯保証人になっているんだよ。」、「息子はここにいるぞ。３時までに１２０万振り込め。払わねえと息子がどうなるかわからねえぞ。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ同人の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午後２時１６分ころ、同人をして、同市ａ２ｅ２丁目ｆ２番ｇ２号株式会社Ｄ２銀行ａ２支店において、同支店から被告人らが管理する上記Ｆ１名義の普通預金口座に現金１２０万円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

３　同月１８日午前１０時５０分ころから同日午後零時１５分ころまでの間、上記Ｃ・ｅ号室から山梨県東山梨郡ａ３ｂ３ｃ３番地Ｂ３方に電話を掛け、同人（当時５８歳）に対し、「息子がアユカワカズトの元金１００万円の連帯保証人になっている。」、「お金を払ってもらわんと困る。」、「２２２万円になる。」、「もう足の骨は折れている。」、「弁護士、警察に言うんじゃねえ。」、「今日の１２時までだ。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ同人の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午後零時４５分ころ、同人をして、同郡ｄ３町ｄ３ｅ３番地ｆ３株式会社Ｄ２銀行ｄ３支店において、同支店から被告人らが管理する上記Ｆ１名義の普通預金口座に現金２２２万円を振り込み送金手続を取らせたが、同口座について取引停止措置が採られていたために同口座への入金を受けることができず、その目的を遂げなかった

４　同月１９日午前９時２５分ころから同日午前９時５８分ころまでの間、上記Ｃ・ｅ号室から山口県柳井市ａ４ｂ４番地Ｂ４方に電話を掛け、同人（当時７５歳）に対し、「黒木という人のサラ金の連帯保証人になっている。」、「黒木が金を払わんのので、今ここに連れてきている。」、「連帯保証人に代わりに払ってもらうために連れて来たんだ。」、「さっき１発くらわした。鼻がめげて電話に出れん。」、「あんたが払わんとここから帰さんど。」、「１５０万円はろうたら帰す。」、「今日の午後２時までが弁済期限だから、それを過ぎたらこの子がどうなるか分からんでよ。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ同人の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午前１０時２９分ころ、同人をして、同市ａ４ｃ４番地Ｄ３支所において、同支所から東京都新宿区ｄ４ｅ４丁目ｆ４番ｇ４号株式会社Ｅ３銀行Ｅ４支店に開設された被告人らが管理するＦ２名義の普通預金口座に現金１５０万円を振り

込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

5 同日午後1時11分ころから同日午後2時7分ころまでの間、上記C・e号室から山梨県東山梨郡a3村b3c5番地B5方に電話を掛け、同人（当時65歳）に対し、「お前の息子がここにいるんだけど、ナカムラマコトという男の連帯保証人になっていて、そのナカムラマコトという男がいなくなったので息子が保証人になっているので借金を払え。」「こっちが言う口座に金を振り込めばいいんだよ。」「早くしないとどうなっても知らねえぞ。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ同人の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午後2時45分ころ、同人をして、同郡d3町d3d5番地e5株式会社D2銀行d3支店において、同支店から大

阪市f5区g5町h5丁目i5番j5号株式会社E5銀行E6支店に開設された被告人らが管理するF3名義の普通預金口座に現金179万5000円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

6 同年12月3日午前10時19分ころから同日午後零時26分ころまでの間、上記C・e号室から岡山県総社市a6b6丁目c6番地d6D6方に電話を掛け、同人（当時73歳）及びD7（当時75歳）に対し、「あんたんとこの息子さんがね、人の350万円の保証人になっている。」「その人が逃げて、なかなか払ってくれないから、今息子を連れてきている。」「息子も払えないというから、殴ってやった。」「鼻が折れてしまったようだ。」「親が払うのが当然だろ。」「全部で350万だ。」「いいか、12時までには、振り込まないと息子がどうなるか分からないぞ。」「100万じゃ足りない。」「あと250万すぐに振り込め。」「息子がどうなっても知らないぞ。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、

その要求に応じなければ上記D6らの親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人らを畏怖させ、よって、同日午前11時45分ころから同日午後零時29分ころまでの間、前後2回にわたり、同人らをして、同市a6e6丁目f6番g6号D4信用金庫本店において、同店から東京都港区h6i6丁目j6番k6号株式会社E5銀行h6支店に開設された被告人らが管理するF4名義の普通預金口座に現金合計350万円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

7 同日午後1時14分ころから同日午後1時30分ころまでの間、上記C・e号室から岡山県邑久郡a7町b7c7番地d7e7作業場に電話を掛け、D8（当時55歳）に対し、「ワダカズマサの保証人になつとる、お宅の息子を監禁しとる。」「今日中に150万円払い込め。」「今日中に支払わなかったら息子を帰さんぞ。」「金額を下げてやるから110万円は支払ってもらわんと困る。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ同人の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午後1時57分ころ、同人をして、同郡a7町a7f7番地のg7D5信用金庫a7支店において、同支店から埼玉県さいたま市h7区i7町j7丁目k7番l7号株式会

社E3銀行h7支店に開設された被告人らが管理するF5名義の普通預金口座に現金110万円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

8 同月4日午後零時20分ころから同日午後零時32分ころまでの間、上記C・e号室から岡山県都窪郡a8村b8c8番地のd8B9方に電話を掛け、同人（当時72歳）及びB10（当時69歳）に対し、「お宅の息子が、ハヤシヨシオの連帯保証人になっている。」「お宅の息子に返してもらおうよ。」「今息子を預かっている。」「金を返してもらわんと息子は帰さんよ。」「123万円じゃ。」「金を振り込まんと帰さんよ。」「2時までに振り込めよ。」などと語気鋭く申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ上記B9らの親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかもしれない氣勢を示して同人らを畏怖させ、よって、同日午後1時52分ころ、同人らをして、同郡a8村e8f8番地D6組合a8支店において

、同支店から東京都中央区g8h8丁目i8番j8号株式会社E7銀行E8支店に開設された被告人らが管理するF1名義の普通預金口座に現金123万円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取した

第2 A1、A2、A3、A4、A5、A6及びA7と共謀の上、同月8日午後1時5分ころから同日午後1時15分ころまでの間、上記C・e号室から岡山県玉野

市 a 9 b 9 番地の c 9 D 1 1 方に電話を掛け、同人（当時 6 8 歳）に対し、同人の息子を装って、「鼻の骨を折られたんじゃ。」などと申し向けるとともに、「息子さんが佐々木という人の連帯保証人になつとりまして、佐々木さんがいなくなつるので、D 1 1 さんに金をはろうてもらわんと困る。」、「和田 4-8-19 にいる。」、「時間がないから、2 時までには振り込んでくれ。」などと申し向けて金員の交付を要求し、その要求に応じなければ上記 D 1 1 の親族の生命、身体等にいかなる危害を加えるかも知れない氣勢を示して同人を畏怖させ、よって、同日午後 2 時 1 4 分ころ、同市 d 9 e 9 丁目 f 9 番 g 9 号 D 7 支店において、同支店から神奈川県横須賀市 h 9 町 i 9 丁目 j 9 番 k 9 号 E 9 支店に開設された被告人らが管理する F 6 名義の普通預金口座に現金 1 7 8 万円を振り込み送金させてその交付を受け、もってこれを喝取したものである。

（法令の適用）

被告人の判示第 1 の 1, 2, 4 ないし 8, 第 2 の各所為はいずれも刑法 6 0 条, 2 4 9 条 1 項に、判示第 1 の 3 の所為は同法 6 0 条, 2 5 0 条, 2 4 9 条 1 項にそれぞれ該当するところ、以上は同法 4 5 条前段の併合罪であるから、同法 4 7 条本文, 1 0 条により犯情の最も重い判示第 1 の 6 の罪の刑に法定の加重をした刑期の範囲内で被告人を懲役 4 年に処し、同法 2 1 条を適用して未決勾留日数中 1 3 0 日をその刑に算入することとする。

（量刑の理由）

1 本件は、被告人が A 1, A 2, A 3, A 4, A 5, A 6, A 7 と共謀の上、高齢者を狙って電話帳に掲載されている一般加入電話に無差別に電話をかけ、電話に出た相手方に対し、息子が保証人になっているなどと虚偽の事実を申し向け、もし時間内に支払えなければ息子に危害を加える旨脅迫して支払いを迫り、被告人らが管理していた銀行口座に現金を振り込ませて喝取するという恐喝及び同未遂の事案である。

2 被告人は、勤務していたいわゆるヤミ金業者が警察に摘発されたのを契機に、本件グループとは別のいわゆるおれおれ詐欺の実行グループに加わっていたところ、知り合いの A 1（以下「A 1」という。）に対して約束していた債務者の一覧表を渡せなくなったことから、代わりに、自己が加わっている上記のグループが行ったおれおれ詐欺やそれを模倣、発展させた恐喝の方法を教示して犯行を持ちかけ、その見返りとして、A 1 らの犯行によって得た利益の中から 2 割ないし 3 割を受け取ることを合意し、A 1 ら共犯者と共謀の上、本件各犯行を敢行したものであって、樂して金を儲けようという利欲的動機は短絡的かつ身勝手というほかなく、酌量の余地はない。

また、被告人は、A 1 らに犯行の手口を詳細に教示したばかりか、犯行発覚を防ぐためいわゆる飛ばしの携帯電話や他人名義の銀行口座を不正に入手することや全国各地の電話帳を用意することなどについて助言をしており、これにより A 1 らは本件犯行に先立ち周到な準備を行った上、山梨県をはじめ、山口県、岡山県と広範囲にわたり、手分けをして、連日のように無差別に電話をかけるなど、組織的かつ計画的に犯行を行ったものである。しかも、A 1 らは、被告人の教示どおりに、犯行が成功しやすいように、高齢者を狙い、我が子の身を案じる被害者の心情につけ込み、息子役である泣き役と脅し役とに適宜役割を分担したり、交互に電話口に出るなどして執拗に脅迫したもので、本件は、おれおれ詐欺を模倣した、より巧妙で卑劣かつ悪質な犯行であり、厳しい非難を免れない。

さらに、被害金額は合計 1 3 6 0 万円余りにのぼり、財産的損害が莫大であることは言うに及ばず、被害者が電話を受けた際の恐怖感や心痛は計り知れず、親の子を想う心情を踏みにじられた悔しさをも考慮すると、被害者らが被った精神的苦痛も甚大である。被害者らの処罰感情が厳しいのも至極当然である。

昨今おれおれ詐欺が全国で多発し、その被害額も多額に及び社会問題化していることに鑑みると、本件の社会的影響は非常に大きく、市民の誰もが標的とされ得る模倣性の高い犯行であって、一般予防の見地からも、厳罰をもって臨むべきものである。

3 被告人は、本件グループにおいてリーダー的存在であった A 1 に対し、前示のとおり、自己が所属する別の犯行グループが蓄積している犯行の手口や周到な準備の方法を教示して犯行を持ちかけ、本件各犯行が実行されている最中にも、狙

えそうな地域を教示する等本件各犯行に不可欠な助言を行っていたものであり、これにより本件グループは短期間のうちに多くの恐喝を成功させていることから、被告人は犯行に欠くことのできない役割を果たしていたというべきであり、また、A 1らが脅し取った金員の中から少なくとも2割くらいの「上がり」を得ることが予定されていたのであって、本件グループの中で、A 1に準ずる地位にあったものというべきである。また、被告人は、前記のとおり別グループのおれおれ詐欺ないし恐喝にも関与して

いたほか、ヤミ金融に手を染めたり、同種の前歴がある上、平成11年11月16日には、青少年保護育成条例違反の罪により、懲役1年、3年間執行猶予、付保護観察に処せられていることからしても、その規範意識は著しく鈍麻しており、再犯のおそれも否定できない。

以上の事情に照らすと、被告人の刑責は相当に重いものといわなければならない。

4 他方、被告人は本件グループにおける恐喝の実行行為そのものは行っていないこと、本件各犯行により生じた利益は一切受け取っていないこと、押収金の還付のほか被告人らやその家族の出捐により合計1088万8505円の被害弁償がされており、本件の財産的損害の大半は被害回復が済んでいること、被告人は当公判廷において、本件各犯行を素直に認めて反省の態度と被害者らに対する謝罪の気持ちを示していること、被告人の母親が情状証人として出廷し被告人の今後の監督を約束していること、被告人の年齢など、被告人にとって酌むべき事情も認められる。

5 そこで、当裁判所は、これらの被告人にとって有利、不利な一切の事情を総合考慮し、被告人の本件各犯行への関与の程度をふまえた上で、主文のと通りの刑を量定した次第である。

(検察官千石奈央、私選弁護人深澤勲各出席)

(求刑 懲役5年)

平成16年8月4日

甲府地方裁判所刑事部

裁判長裁判官 川 島 利 夫

裁判官 柴 田 誠

裁判官 肥 田 薫